

はじめに…怠慢の百年間

ローリー・カザンアレン

(国際アスベスト禁止事務局 (IBAS)* コーディネーター)

一八九九年、三三歳の患者はロンドンの病院で呼吸困難症に罹っていると告げられ、一四か月以内に死亡した。彼は、アスベスト織物工場の毛羽立て室で働いていた一〇人のうちの最後の生き残りであった。モンターギユ・マレー博士によって一九〇六年に英国議会に報告されたこの無名の患者の事例は、公式に報告された最初のアスベスト関連の死亡であり、アスベストにより引き起こされる人の健康への危険性は、その後フランス(一九〇六年)、イタリア(一九〇八年)、ブリテン(一九一〇年)、そしてアメリカ(一九一八年)でも確認された。そして、ヨーロッパ諸国の政府がこの危険性を知ってから一〇〇年も経った後ですら、アジア諸国の中でアスベスト使用が増えているところがある。

比較的最近まで、アジアにおけるアスベスト使用に関する情報はなかなか入手できなかったが、それは初めの頃はデータ不足のためであり、最近では翻訳資料が不足していたためである。二〇〇四年に日本で、二〇〇六年にタイで開催された画期的な会議はこの情報不足に終止符を打ち、医学研究者、疫学者、技術者、その他の著名な専門家らが、各地域でのアスベスト及びアスベスト含有物の消費に関する豊富なデータの詳細を明らかにした。アジアの船舶解体現場にお

* 国際アスベスト禁止事務局 (IBAS) については、94頁下段の説明を参照されたい。

本書のオリジナル英語版『Killing the Future: Asbestos Use in Asia』は2007年7月に出版され、以下でPDF版を入手することができる (http://www.lkaz.demon.co.uk/ktf_web_fin.pdf)。本書はローリー・カザンアレン氏の提案と了承のもとに、石綿対策全国連絡会議の編集によって発行されるその日本語版である。



Photo: Damian Zibert

フィードバックもまた、国際的な情報の流れに貢献している。その結果、われわれは現在、主要な科学団体のことごとくによって非難されている物質をアジア諸国の政府と消費者がどのようにして、そしてなぜ使い続けるのかについて説明することができる。

どのくらい多くの生命が asbestos の犠牲になったのか誰も知らない。世界保健機関によると、今日一億二、五〇〇万の人々が職業的に asbestos に曝露しており、そのために毎年九万人が死亡している。^{*} カリフォルニア大学労働医学国際センターのディレクター、ジョー・ラドゥー教授は、asbestos が世界的に禁止されるまでに一、〇〇〇万人の命が失われるかもしれないと考えている。^{**} 利益に貪欲な asbestos 利害関係者と政治権力による無防備な集団からの搾取は、発がん物質の貿易を許し続ける国際的な規制の抜け穴を利用している。地域的及び国際的な asbestos 禁止

る asbestos を含んだ廃船の廃棄に関連する問題やキャンペーン団体の活動もまた、二〇〇四年世界 asbestos 会議、及び二〇〇六年アジア・asbestos 会議で討議された。これらの発表の詳細な研究と最近の進展のニュースを合わせると、いくつかの傾向が明らかになってきた。社会的パートナー間のコミュニケーションの増大とアジアにおける共同の取り組みからの

* [原注①] 世界保健機関 (WHO). Elimination of Asbestos-Related Disease. Policy Paper. September 2006.

http://www.who.int/occupational_health/publications/asbestosrelateddiseases.pdf

** [原注②] LaDou J. The Asbestos Cancer Epidemic. Environ Health Perspect. 2004. 112(3): 285-290.

が先進国で十分に実施されずと後まで、職場と公衆の健康の保護に責任ある国際機関は、アスベスト産業によって組織された国際的な宣伝キャンペーンによって圧倒されたままであった。委託された「科学的研究」と、独立した会議であるとしてカモフラージュされた産業側のイベントを利用して、アスベスト推進者は混乱を広め、批判を緩和し、危険な曝露を最小にするための規制の導入を遅らせた。政治的なまた金銭的な動機に煽られて、儲かるアスベスト市場を維持する利害関係者は、そのようにすることによって一向に弱まる兆候が見えないアスベスト関連の疾病と死亡の流行を引き起こした。

二〇〇六年に国際労働機関と世界保健機関がアスベスト禁止のキャンペーンを支援することを決めた時から、アスベスト利権者らはその活動を徐々に増大させた。ロシア、ベラルーシ、カザフスタン、キルギスタン、タジキスタン、ウズベクスタン、及びウクライナのアスベスト・セメント工場の労働組合は、「科学的に根拠のない攻撃」からこの産業を守るために、そしてアスベストの禁止を求める世界の労働組合の諸連合組織による要求に対抗するために、クリソタイル国際労働組合連合を設立した。アスベスト研究所の元健康環境ディレクターであるジャック・ダニガン博士からWHO総裁に送られた手紙は、クリソタイル・アスベストを悪魔呼ばわりするのは不当であり、無分別であり、欠陥のある科学であると不平を述べた。(カナダ)クリソタイル研究所からILOに送られた手紙は、「今日では、クリソタイルは責任を持って使用され、厳格な安全基準によって規制されている」と主張して、ILOのアスベストに関する決議(二〇〇六年)を撤回することを「要求」した。^{***}この手紙が正しくないことを証明する報告書がすぐに出ている。

そのような死に至らしめる物質の採掘、輸入及び使用は近視眼的で不合理であり、この世界の殺人者によって及ぼされる潜在的なダメージに免疫を持つ者はいない。アジア諸国における現在

* [原注③] 最近の産業側主催イベントには、2002年エカテリンブルグ、2002年ロンドン、2003年ニューデリー、2003年リマ、2006年モントリオール、2006年ジャカルタ、及び2007年モスクワがある。

** [原注④] 1984年以来、クリソタイル研究所 (Chrysotile Institute) からアスベスト研究所 (Asbestos Institute) と名前を変えた同研究所は、カナダのアスベスト産業界の代弁者である。同研究所はカナダ連邦政府及びケベック州政府、及びアスベスト産業から資金を得ている。

*** [原注⑤] Chrysotile Institute Newsletter. Volume 6, Number 1. February 2007. See: http://www.chrysotile.com/data/newsletter/bull_6_1_en.pdf.

のアスベスト曝露は、今後、高額の治療費、生産性の低下、そして広範なアスベスト関連疾患による死亡率の上昇をもたらすであろう。国家の基盤にもっと多くのアスベストを導入するようなことをすれば、すでに致命的な状況をさらに悪化させるだけである。汚染された建物や輸送システムは、それを使用し、そこで働き、またはそれらを保守する全ての人々に対するリスクであるときみなされ、時が経ち政府がアスベスト曝露を最小とするためにより厳しい規制を実施するときに、アスベストの存在はそれを管理するために高いツケとなる。そして最後には、使用されたどのようなアスベストも全て取り除かれ、有害廃棄物として処分されなくてはならず、本来は避けることのできた余分なコストが発生する。

『未来を奪う—アジアのアスベスト使用』の作成に参画した諸団体は、将来の世代をアスベスト疾患から守ることを決意している。最後にわれわれは、共通の目標であるアスベストのない未来を達成するために共に働くという使命と意志を誓っている！